

熊本県立熊本西高等学校 令和3年度（2021年度）学校評価表

1 学校教育目標

「清・明・和」の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして生徒一人ひとりと深く関わり、きめ細かい指導とアカデミックインターンシップや探究活動などの充実した教育プログラムで生徒の可能性を伸ばし、生徒の夢や目標を実現する世界的視野に立った人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- 1 生徒理解 …… 個に応じた、個を大切にしたいきめ細かい指導
- 2 学力の向上 …… 基礎学力向上、授業改善
- 3 人間力の向上 …… 基本的な生活習慣の確立、マナーやモラルの向上
- 4 自己の伸長 …… キャリア教育、探究活動、ボランティア活動、部活動
- 5 進路目標実現 …… 行きたい進路目標（夢）の実現学力の向上

高校3年間で「生徒を大きく伸ばす西高」となるよう個を大切にしたいきめ細かい指導に全職員で取り組む。また、アカデミックインターンシップ、インターンシップなどの系統立てたキャリア教育や地域・外部機関と連携した探究活動、ボランティア活動、部活動など、生徒が主体的に活躍する場を与え、生徒の成長を促す。これらの充実した教育プログラムの実施と志望先に特化した進路指導で、進路実績の向上を図り、生徒・保護者や地域の期待に応える。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と学校行事の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学、中学校説明会の内容充実 ・広報誌（西高新聞や西風）の内容の充実 ・学校HPの随時更新、SNS等を活用した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の取組内容を精査し、内容の充実を図る。またコロナの状況に対応できる実施方法も検討する。 ・担当部署、他の部との連携のもと、学校全体として取り組む。 ・生徒主体を推進し、生徒が生き生きと活躍し成長する姿を発信する。 	A	<p>体験入学を7月に1日（2回）実施できた。中学校での説明会には全て参加できた。8月以降は、少人数・個別の対応で高校説明及び部活動体験等を行った。</p> <p>西高新聞は県下全中学校に配付した。西風は育西会広報委員会を中心に発行し、有意義な広報誌となった。</p> <p>行事や学校生活の様子を発信できた。</p>
	地域とつながる学校	小中高大の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業、西高アカデミックインターンシップ（NAIS）及びインターンシップ（2年生）の推進 ・中高連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県立大、熊本学園大、崇城大との継続的事业、NAIS 参加7大学・2専門学校との連携 ・地域や同窓生の企業や事業所との連携によるインターンシップの実施 ・在校生が多い中学校に複数の担当者を充て、日常から生徒や本校の情報を交換することで関係を深める。 	A	<p>新型コロナ感染拡大防止のため1年生は、オンラインでの実施となり、2年生はインターンシップの代わりに地域探究で主体的な行動を促したことで、今後の自身の進路のことを真剣に考えるようになった。</p> <p>西高新聞を始め、パンフレットや安心安心メールで本校の様子をこまめに発信することができた。生徒募集に係る中学訪問は例年の3倍以上に及び、中学校との連携を深めることができた。</p>
			地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の英語教育の支援、部活動を活用した高校理解の推進 ・地域の様々な団体と積極的に交流することで、地域での活躍の場を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のこども園、小学校と連携を取り、英語教育の支援を行い地域に浸透する。 ・西、南区の各中学校との部活動交流、情報交換による連携強化 ・高齢者支援センターや子育てサークル等と連携しボランティアやサポーター等に積極的に参加し交流を深める。 	A
	業務改善	ICT等を活用した業務改革	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報化認定制度において、早期の優良校認定を目指す（校務の情報化） ・学習支援システムやタブレット端末を活用し、業務の改善、削減に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook や GoogleClassroom を利用し、生徒や保護者への連絡やアンケートの実施・集計をオンライン化し、配付・集計に係る職員の業務を削減する。 ・会議資料や連絡資料をペーパーレス化し、印刷や書類の整理の負担を減らす。 	A	<p>年度当初よりコロナ禍に対する対応と併せて連絡やアンケートをオンライン化し、業務省力化・ペーパーレス化を進めることができた。保護者 Google アカウントの整備等を進め、8月には県内高校で初めて優良校認定を果たした。</p>
		働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務時間の10%縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日及び定時退勤デーの設定 ・部活動の練習日、活動日の月間計画公表 ・業務分担の見直しと職員の意識変容 	A	<p>学校閉庁日と定時退勤日を設定した。部活動の活動日は、HPに公表した。</p> <p>3年連続で、職員の在校時間は減じている。</p>
	わかる授業魅力ある授業への転換	授業による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的で深い学びを意識した授業展開に取り組む。 <p>[指標：職員アンケート] 私は授業改善に取り組んでいる。（3.5）（前年 3.4）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個性に応じた学習支援を行い、基礎学力向上を図る。 ・主体的、対話的で深い学びにつなげる授業改善 ・年2回の研究授業旬間の設定 ・授業見学レポートの活用 ・各教科で観点別評価の試行を行い、次年度から実施に繋げる。 	B	<p>職員アンケート「私は授業や生徒指導で積極的に ICT 機器や情報ツールを活用している」は3.22 と向上した。「主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開している」は2.78 と低下しており、ICT 活用について研究を継続する必要がある。</p>

学力向上			[指標：生徒アンケート] 私は積極的に授業に参加している。(2.8) (前年 2.6)	・各教科で生徒が主体的に考える授業に取り組み、生徒のやる気を引き出す。	A	「私は積極的に授業に参加している」は 2.76 であったが「ICT 機器や情報ツールを活用している」は 3.36 と高くなっている。ICT 機器の活用を意欲的、主体的な取り組みにつなげる方策の研究が望まれる。
		ICT等を活用した授業改革	・一人一台端末を用いた授業や課題の充実 ・学校情報化認定制度の優良校認定を目指す。 [指標：くまもと ICT 指数] Class-KI30 (授業時間の 30%の端末活用) を基準とし、50 (50%) 以上を目指す。	・ICT活用をテーマとした授業研究を全教科にて実施 ・全教科において Chromebook を授業や学習課題等に活用し、モデル授業や職員研修を実施する。(1、2年生を中心に)	A	本年度は ICT 活用を授業研究のテーマとし、全教科で授業の改善に取り組んだ。学校情報化認定制度の優良校認定を県内で最初に受けた。Class-KI：教師 66 生徒 39 (12 月調査) モデル授業を Web 公開するなど、ICT を通じた新しい取り組みを積極的に行った。
	計画的な学習指導の充実	計画的な学習指導と適正な評価	・生徒一人一人の学習における課題解決に必要な思考力、判断力、表現力の育成	・授業中の活動やレポート、作品発表に対し、個に応じた評価を行い、意欲向上につなげる。	B	学習評価の検討を継続する。特に新教育課程での指導と評価の一体化を意識して行う。
キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育	ポートフォリオの充実	・生徒のキャリアを着実に積み上げ、新入試制度に対応	・セルフチェックノート等によるポートフォリオやキャリアパスポートを通して振り返りながら生徒の主体性を伸長させる。 ・各学年の進路研修会を充実し、全校で情報を共有化	B	各行事ごとに振り返りを言葉や文字で表現することで現時点での自身の課題点が明確になり、常に目標を持って生活する生徒が増えた。
	一人一人の進路目標達成	進路実績	・昨年度を上回る進路実績の実現 (進学 100%決定・国公立大合格者 20 人 ・公務員指導の充実・就職 100%決定)	・全職員による進路指導の充実 ・進路相談、面談の充実 ・個別指導・面接指導・学力検討会の充実	B	進学については、昨年度以上に現時点での内定率も向上し、不合格者も減少した。国公立大に拘ることなく多様な進路選択をし自身の生き方を考える生徒が増えた。公務員についても外部指導者からの講座などの充実により昨年度並みの合格者がでた。
		進路意識の涵養	・夢や目標を与える取組の実施 ・アカデミックインターンシップ (NAIS) 及びインターンシップの充実	・日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 ・生徒の適性を考慮した NAIS 及びインターンシップの実施 ・地元企業や同窓会と連携した幅広い受入先企業の開拓	A	保護者会の際に評価の高い講師を招聘し、本校の実態に合った講話を実施した。NAIS や地域探究も同窓生や外部団体、大学と連携し、社会の成り立ちや人との接し方を学び自身の将来像をデザインする契機にする生徒が増えた。
生徒指導	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	・重傷事故ゼロ、交通事故件数一桁 ・自転車ヘルメットの着用	・毎月 11 日を交通安全の日とし、学期に 1 回、警察・育西会・交通委員で交通指導を行う。 ・交通安全集会で危険箇所の理解と危険行為の撲滅を図る。	B	重傷事故はなかったが、交通事故件数は例年と変わらなかった。左右確認や一旦停止を確実に行えば防げる事故も多く、新入生への早期の指導やポイントを絞った指導を行っていく。警察との合同指導は継続していきたい。
	基本的な生活習慣の確立	時間厳守 爽やかなあいさつ 正しい着こなし	・朝の遅刻者数減 ・あいさつ・時間厳守・服装 [指標：生徒アンケート] (3.7) (前年 3.51)	・職員、生徒会、風紀委員による遅刻服装指導、率先したあいさつ励行	B	整容面で指導を受ける生徒は減少している。遅刻者は 1 日平均 0.9 人と増加した。複数回遅刻の生徒が多く生活習慣の改善も含め根気強く指導していきたい。スマホ使用による睡眠時間の低下や SNS 絡みのトラブルが増加している。家庭と協力して「正しい使い方」の指導から三点固定の確立を目指し、十分な睡眠に加えて家庭学習時間の確保にも繋げたい。
	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	・生徒が主体となった行事の企画・運営	・学校行事等において可能な限り、生徒主体への移行やアイデアを取り入れる。	A	コロナ禍で短縮された体育大会・創立記念祭・クラスマッチであったが、生徒会を中心に自主的に運営することができ、多くの生徒が充実感を味わうことができた。
		高い志及び目標を持った高校生活実現の支援 (プラスワンの指導)	・生徒が目標を持って、学校生活を送っている。	・全職員による様々な場面での声かけや励まし等の支援 ・生徒会企画への支援	A	生徒会が企画立案し「授業に取り組む姿勢を改善しよう」を実施した。各クラスで目標を立て、授業への意識も高くなっていった。充実した学校生活への支援を今後も続けていきたい。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境 ISO の取組推進	・美化・省エネ [指標：生徒アンケート] (3.2) (3.06)	・掃除箇所・担当を見直し、掃除指導の徹底を図る。 ・細めな消灯・節電・節水	B	学年主任は掃除巡回を行うなど、掃除箇所や担当を見直した。生徒・職員アンケート評価は向上した。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	・校内研修の充実 ・特別支援教育の充実	・人権や命の問題についての知識や考察を深める研修の実施 ・合理的配慮、個別の教育支援計画の実施	B	部落問題の概要について再確認することができたが、意見交換などもう少し意識を深めたかった。年間を通じ SC や SSW を活用した、継続的な対応ができた。
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	・命を大切にする心の育成の充実	・授業等で命の大切さについて学ぶ機会を各職員が 2 学期までに 1 回以上設定	B	各授業で、機を見て生徒に語りかける姿があった。

			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および職員の心身のストレスの軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーション等の知識や技術の定期的な啓発と促進 ・西高コミュニケーション・サークル（NCC）の実施 		<p>コロナ禍のため活動が制限されたこともあり、働きかける機会が少なかった。必要とする生徒に対して、回数は少なかったが実施することができた。</p>
いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率 100% ・生徒会による取り組みの充実 ・外部専門家の活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止および早期対応の実施 ・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用 ・生徒会による取り組みへの指導、支援 ・SC、SSW、医療機関等との積極的な連携 	B A A	<p>疑わしき事案発生時も担任、学年主任、管理職、情報収集担当者の連携をより密なものにすることが課題 訴えた生徒に対し、迅速に対応できた。声を上げることができない生徒の早期発見、対応が課題</p> <p>コロナ禍のため活動が制限され少ない機会であったが、活動を支援することができた。</p> <p>入学前面談を実施し、1年間SSWとの面談を実施した結果、学校生活や家庭での課題に迅速に対応することができた。また、SC面談を通して医療機関につなぐことができた。</p>
地域連携（コミュニティスクールなど）	地域・保護者・関係機関との連携	<p>地域・保護者・関係機関との連携</p> <p>（総合型）学校運営協議会の設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（創立記念祭・チャレンジウォーク・避難訓練等）をととした交流事業の充実 ・（総合型）学校運営協議会による学校評価や本校取組の検証並びに地域（学校）防災体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係行政機関、保護者との連携 ・近隣小・中学校、地域との積極的な交流 ・学校運営協議会を年3回実施（うち1回は防災に特化） ・地域と一体となった防災システム及び災害時連携体制の強化 	B A	<p>コロナ禍の中、各行事において保護者を一同に集める活動は出来なかった。育西会役員のための活動であった。</p> <p>実動訓練やコミュニティスクールを通じ地域と連携し防災体制の強化が図れた。ただ、危機管理マニュアルの見直しが必要である。</p>
特色ある教育	理数科・サイエンス情報科の充実	研究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンス情報科の教育活動の実施と校外へのPR ・高大連携による実習の着実な実施 ・発表会、コンテストでの入賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンス情報科の活動の充実及び外部への積極的な情報発信 ・大学との事前協議の充実 ・科学イベントへの積極参加 ・課題研究の進め方の改善や講座内容の調整 	A B	<p>県課題研究発表会も2年ぶりにホールで実施でき、優秀賞をいただいた。大学との調整も着実にいき、パルスパワー実習等、概ね予定通りの実習ができた。科学イベントは、本年度も中止になるものがあり、一部のオンラインでの活動にとどまった。</p> <p>教務と連携し、積極的に情報発信を行った。体験入学で体験プログラムを実施し盛況であった。学校説明会でも科の説明の時間を確保できた。</p>
		志望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・特色的な教育活動を積極的に中学校や地域へ発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンス情報科体験プログラムの実施 ・学校説明会でのPR実施 	B	
	体育コースの充実	専攻授業・実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・競技実績の向上（全国大会出場者・入賞数を増やす） 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識並びに技能の習得を目的とした講習会・実習の実施 	A	<p>10月パワーアップ講演会（ジュニアアスリート期のコンディショニング）実施。12月オリパラ事業（オリンピック江里口匡史氏実技指導講演会）実施</p>
		志願者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・県内中学校との連携を図り、開かれたコースを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターやチラシを用い県内中学校へ配付する。 ・部活動見学会など体験的な行事を計画する。 ・近隣中学校との交流活動の充実 	A	<p>6専攻種目、各種目において中学校との合同練習実施。オープンスクールにおける部活動見学会ならびに体験活動実施</p>
新型コロナウイルス	新型コロナウイルスへの対策	新型コロナウイルス感染拡大防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動を通してマスクの着用 ・手洗いうがい・手指消毒の徹底 ・人との会話や食事など意識付けと消毒液などの環境整備 	A	<p>授業における更衣場所の課題あり。人数が多い3年生に関してははなぎなた場を開放した。各部活動への体温計・アルコール消毒ボトル配付。部室ならびに更衣室に貼るためラミネートした注意事項を配付</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・自宅待機者におけるICT機器を活用した学習の支援策 	<ul style="list-style-type: none"> ・濃厚接触者等で自宅待機の生徒に対し、オンライン授業等で家庭と教室を繋ぎ、学習の遅れがないよう支援する。 ・各種集会のオンライン化により生徒の接触機会を減らす。 	B	<p>休校中や雨天時での授業対応として、オンラインによる授業（動画視聴）を実施</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部への消毒液配付。顧問会での感染防止対策周知 	A	<p>12月までに3回の顧問会を開き、感染防止の共通理解を図った。体温計・アルコール消毒ボトル配付。部室に貼るための注意事項を配付</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・部活動における感染防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や家庭において、体調管理（健康観察）、3つの密を避け手洗いや消毒等を徹底する。 ・手洗い、うがい、手指の消毒等を奨励し、不要不急の外出は控え、計画的な家庭学習を行う。 	B	<p>手洗い、うがい、手指消毒、マスク（できれば不織布）着用を行い、健康観察、教室の常時換気、黙食、歯みがき（注意事項の掲示）・更衣・トイレ・部室等での感染予防対策が出来た。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や家庭における感染防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症への知識やウイルスと共存する生活等について、職員も共通理解をし、生徒へ周知する。 ・面談やアンケートを実施、SC等を活用する。 	B B	<p>熊本県のリスクレベルに合わせた対応を周知した。受診や検査に関する学校への報告が遅い場合があったので、迅速な報告の周知を徹底していきたい。</p> <p>専門家（学校医・薬剤師・保健所）の助言による学校での対応策を検討し、対策を講じた。</p>

<p>4 学校関係者評価</p> <p>地域住民、行政、教育関係、企業、同窓生及び保護者の立場から、幅広く御意見をいただいた。</p> <p>(1)本校の教育スローガンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいスローガンのもと、生徒の夢実現に向けた教育活動が展開されている。 ・保護者の評価については、学校評価アンケート(以下、「アンケート」とする)「子どもを西高に入学させて良かった。」の項目が高いことに尽きる。 <p>(2)授業改革と学力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上については中学校も同様であるが、生徒の自己評価がさらに高いものになっていくような授業改善に今後も継続して取り組む必要がある。 ・研究授業旬間は、ICT機器を活用した授業実践という明確な目的意識を先生方で共有されて実施している点が評価される。 ・職員の評価については、アンケート「私は、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開している。」の項目に関して、教科の枠を取り払い、お互いのアイデアや考えを積極的に交換しあうことも含め、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善に努めていく必要を感じる。 <p>(3)生徒指導及び進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導では、効果的なゼミの実施や土曜チャレンジ等、生徒の立場に立った指導に目を引かれる。 ・生徒の評価では、アンケート「私は、いじめをしない、許さないという気持ちをもっている。」の項目が3.72と一番高く、生徒1人1人がそのような気持ちで過ごしていることを頼もしく思う。 <p>(4)地域との連携及び生徒会・部活動の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「私は、小中学校または大学との連携事業に参加した。または、しようと思っている。」の項目に関して、小・中・大も含め、そのような機会や場を設定することが今後の課題である。 ・地域との連携については様々な面で実施していただいている。今後も継続的な取り組みをお願いしたい。 ・中高の生徒会の交流は実現させたいことの一つである。様々な活動を通して、高校生の考えや行動力・パワーを是非中学生に伝えてもらいたい。 ・生徒会の取り組みに関しては、区役所としても協力できることがある。また、区のまちづくりを進めるうえで、西高の生徒会に協力をお願いしたい部分もあるので、生徒会との協議の場を設定していただきたい。 ・部活動における活躍は中学生の刺激となっており、コロナが落ち着けば文化系も含めて部活動の交流をお願いしたい。 ・フィールド競技や柔道・水泳に加え、なぎなたやウエイトリフティング、ラグビーなど西高らしさが発揮された実績は在校生、卒業生、地域住民にとっても誇れる結果であると感じている。

<p>5 総合評価</p> <p>(1)学校教育目標</p> <p>アンケートでは、本校の「校訓」、「教育理念(文武両道)」の実践について、生徒・保護者・職員のいずれも評価が上昇した。コロナ禍により当初の計画通りに行かなかったものの、オンラインでの西高アカデミックインターンシップ(NAIS)、無観客ではあったが2年ぶりの開催であった体育大会、芸術鑑賞とあわせて実施した創立記念祭、コースを変更して行ったチャレンジウォークなど、生徒の可能性を伸ばす取り組みを生徒会・育西会、地域・外部機関等と連携して実現できた。世界的視野に立った人材の育成という点では、台湾・シンガポールへの修学旅行は実施できなかったものの、サイエンス情報科のイングリッシュデイでオールイングリッシュでの授業実施、崇城大学(SILC)との連携による体験学習等の取り組みが実施できた。コロナ禍で中止となった学校行事も多々あり、何らかの形で生徒に体験させることで達成感を味わわせることができれば、生徒の可能性を広げ成長に繋がれると考えられる。</p> <p>(2)重点目標</p> <p>「生徒理解」では、「西高の先生は、生徒の悩みや相談に親身になって応じている」の項目において生徒・保護者の評価は高い。学年団による丁寧な面談が適宜行われており、定期的な面談週間に限らず生活や進路等の悩みや相談への対応を随時行っている。また、教育支援部を中心とするSCやSSWの活用を含めた継続的な相談・支援体制づくりを進めている。</p> <p>「学力の向上」では、学力向上に係る2つの項目において、アンケート全体の平均をいずれも下回っている。一人一台端末の整備が完成した今年度は、ICT機器を活用した授業研究をテーマに全教科で授業改善に取り組んだ。また、次年度からはじまる観点別学習評価への対応を通じて、新しい角度からの授業研究をすすめている。</p> <p>「人間力の向上」では、生徒指導に係る2つの項目において生徒・職員の評価がやや下降しているものの、生徒・保護者・職員いずれも高い評価を保っている。挨拶や時間を守る等の基本的なマナーが本校の良き伝統として定着しており、本校の強みである。</p> <p>「自己の伸長」及び「進路目標実現」では、生徒はキャリア教育に係る行事については高い評価である。2年生の西高プロジェクト(地域課題解決プロジェクト)や1年生のNAISなど本校独自の取り組みについて、本校生徒や地域の実態等に合わせた内容へ質的な向上を図っている。また、部活動加入率は3カ年の中では一番高い数値となった。</p> <p>(3)自己評価総括表</p> <p>「業務改善」及び「新型コロナウイルスへの対策」では、年度当初からコロナ禍への対応と併せてICT機器等を活用した業務改革に努め、生徒・保護者への連絡やアンケートのオンライン化、会議・連絡資料のオンライン上での提示等により職員の業務負担の軽減やペーパーレス化を進めることができた。また、夏季休業中の学校閉庁日及び定期考査時の定時退勤日の設定等により、3年連続で職員の勤務時間外の在校等時間を減らしている。感染者や濃厚接触者が増え教育活動が困難な時期もあったが、ICT機器を活用した学習及び生徒・保護者との連絡・報告体制の確立、感染拡大防止のための学校生活のあり方の定着等が進んだ。</p> <p>「地域とつながる学校」では、県内大学や専門学校との連携をベースにした各種の教育活動を、コロナ禍のなかにも試行錯誤を重ね充実させることができた。また、西高新聞や学校HP等を通じた中学生や地域への情報発信、生徒募集に係る中学校訪問の拡充に取り組んだ。さらに、近隣小学校との英語かるた交流や子ども園とのスポーツ交流を通じて地域貢献ができた。なお、地域と一体化した防災体制については、学校運営協議会等を通じ計画や役割の確認が行われ、災害時の連携強化が図られた。</p> <p>「授業改善」及び「進路実績」では、ICT機器等を活用した授業改革については、一人一台に配備された端末を積極的に活用した授業づくりが進むとともに、学校情報化認定制度の優良校認定を県内で最初に受けることができた。一方で、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改革については今後の課題であり、ICT等の活用と結びつけた授業改善が望まれる。進路面では、国公立大学にこだわることなく多様な進路を選択し、自身の生き方を真摯に考える生徒が増えた。また、公務員や一般就職においても着実に成果を出すことができた。さらに、キャリア教育に係る各種の企画や担任等の個別指導等も生徒の希望や状況に応じた柔軟なものになっている。</p> <p>「生徒指導」では、職員・生徒会による遅刻・服装指導等により、改善に係る指導を受ける生徒数は減少し、遅刻者数も1日平均0.9人となった。一方で、スマホ使用による睡眠不足やSNSに係るトラブルの増加といった問題が出てきており、家庭との協力・連携によるスマホの正しい使い方や三点固定の生活・学習リズムづくりが求められる。また、各種行事では生徒(会)の企画や運営が自主的・主体的に行われ、多くの生徒が充実した学校生活を実感している。</p> <p>「人権教育の推進」及び「いじめの防止」では、年間を通しSCやSSWを活用した継続的な対応や支援ができた。困り感について自ら声を挙げられない生徒や疑わしき事案の早期発見や対応のあり方について、引き続き検討と実践が求められる。</p> <p>「特色ある教育」では、サイエンス情報科では大学や企業との連携により最先端技術等に係る各種の実習が実施でき、県課題研究発表会では優秀賞を受賞した。また、普通科体育コースでは、6専攻の競技を中心に全国大会出場等の好成績を収めることができた。また、専門知識並びに技能の習得を目的とした著名なアスリートによる講演会等を開催できた。両者とも中学生対象の体験活動について工夫を凝らす形で実施し、科・コースとしての特色ある教育について中学生へ周知と理解を深めた。</p>

<p>6 次年度への課題・改善方策</p> <p>(1)進路目標(夢)の実現に向けた取り組みのさらなる充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ①低学年から授業を中心とした学習習慣の定着を図り、進路目標(夢)の実現に必要な学力を育成する。 ②キャリア教育に係る各種の企画に意欲的・主体的に取り組む姿勢を培い、自ら進路を切り拓く意識を高める。 ③ゼミや模試の実施内容や活用方法を見直し、個別指導のより柔軟で円滑な関連を図る。 <p>(2)一人一台端末整備の環境を最大限に活用した主体的・対話的で深い学びを指向する授業改革の進展</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科会や授業研究旬間等の教師間の学び合いの機会を拡充する。 ②指導と「観点別学習」評価の一体化を視点とした授業改善の研修等を実施する。 <p>(3)生徒一人一人に寄り添った相談・支援体制の確立</p> <ol style="list-style-type: none"> ①入学から卒業まで生徒の3年間を見通した相談・支援体制を職員間で共有し、生徒・保護者に周知を図る。 ②生徒指導事案やいじめ事案等を未然に防止するための手立てや発生時の対応について職員間で共有し、適切に支援・指導を行う。 <p>(4)特色ある教育の発信と生徒募集の拡充</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サイエンス情報科や普通科体育コースの特色ある取り組みと実績の発信方法について研究する。 ②県指定「イノベーションハイスクール」として、現在の実践を再構築し西高の魅力づくりを進める。 ③各種の中高連携を強化し西高への理解を深め生徒募集へ繋げる。 <p>(5)業務改革と働き方改革</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ICT機器の活用やペーパーレス化による業務負担の軽減を進める。 ②各分掌の校務の精選や分担の見直し等を図り、業務の平準化を進める。
